

浮上式「採用難しい」

気仙沼
湾 奥

堤防計画説明会始まる

気仙沼市内の堤防計画について行政と住民が意見交換する市民説明会が11日夜、内湾地区を皮切りにスタートした。初回は、復興コンペで湾奥への導入が提案された「直立浮上式防波堤」に9割方の意見が集中。漁港を管理する県は「採用は非常に難しい」と繰り返し説明した。説明会は29日まで12会場で開催される。

住民 再考求める

初日は魚市場会議室の堤防計画、堤防高の会場に、魚町から川口町までの漁港と港湾100人を越える住民



市が関係機関に声がけして開催した市民説明会

らが出席し、堤防高や堤防整備の影響などで疑問点を確認した。説明によると、この区間には、明治三陸級の津波を防ぐ海拔5.7・2級の堤防を新たに張り巡らす。堤防の位置やタイプには、背後地の復旧状況や土地利用方針、地域の声を反映させるといふ。堤防がもともとは、今回新設する区間は、県費負担の大きい通常事業となるため、復興枠として国の支援を要請しているが、県は「現段階では、いつまでに着手・完成するとは断言できない」と説明した。

要な湾奥地区には、神崎から柏崎にかけて浮上式防波堤を整備することを柱とした提案が、復興コンペで最優秀賞を受賞している。コンペ結果は参考の一つと位置づけられているが、コンクリート製の堤防と比べて景観が損なわれず、盛り土も最小限で済むことから、導入を切望している住民もいる。

しかし、県議会6月定例会で村井嘉浩知事が導入に否定的な発言をしており、県気仙沼地方振興事務所水産漁港部の梶塚善弘部長は「現場で機能した実績がなく、維持管理のデータもない。現段階

では詳細な検討は困難だ」と県の考えを正式に伝えた。

魚町の住民は「和歌山では国直轄で導入が決まっている。実績は心配しなくていい」「コンクリートの壁の中には住みたくない」

「諦めろと言われても諦めきれない」と再考を求めた。一方、「浮上式堤防のために背後のまちづくりも決まらない。早く方向性を知りたい」と早期決断を促す意見も出た。

菅原茂市長は「県知事の発言を重く受け止め、命に関わるものは態度を変える必要がある」との考えを示す一方で、納得できない住民が多いため、「さらに勉強し、何がどのくらい問題かを明らかにする」。

し、一日も早く住民に説明する」と語った。このほか、商港岸壁に7・2級の堤防を整備した後の車両の出入りについて、県は「ゲート方式と道路で乗り越える方式があるが、まだ詰め切れていない」と説明。余裕があれば背後地の地盤を高くして、道路で乗り越える方向で考えたいという。魚市場の堤防も、車両の出入りに影響しない方法を検討する。

また詰め切れていない」と説明。余裕があれば背後地の地盤を高くして、道路で乗り越える方向で考えたいという。魚市場の堤防も、車両の出入りに影響しない方法を検討する。

2012年7月13日付

「三陸新報」1面